■ [ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館] 指定管理者内部評価 評価結果シート

施設名	ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館
指定管理者	FSPグループ
評価対象年度	令和5年4月1日～令和6年3月31日
所管課	都市整備部 公園緑地課 ・ 環境部 環境政策課

総合評価	評価の理由
A	<p>指定管理期間2期目の2年目である令和5年度については、ホームページや、X(旧 Twitter)、Instagram といった SNS、広報ふなばし、外部イベントでのチラシ配布など様々な方法で三番瀬海浜公園及び環境学習館を積極的にアピールして利用者数拡大に努めながらも、利用者が安全・安心・快適に利用できるよう点検や清掃、研修を徹底していた。</p> <p>また、一部施設でクレジットカード決済・QR決済対応をするなど、利用者サービスの向上を図っていた。</p> <p>総合評価 評価項目においてS評価が18項目、A評価が21項目でS・Aのいずれかで構成されており、Sの割合がAの割合未満であるため、その結果総合評価をAとした。</p>

※総合評価は「施設所管課による評価」だけを対象に評価する

※総合評価で評価項目が混在する場合の基準は下記「総合評価の基準」を適用します

総合評価の基準	
S	事業計画に基づく評価表の評価項目がS・Aいずれかで構成されており、Sの割合がAの割合以上である
A	事業計画に基づく評価表の評価項目がS・Aのいずれかで構成されており、Sの割合がAの割合未満である 事業計画に基づく評価表の評価項目がS・Aのいずれか及びBで構成されており、S・Aの割合がBの割合以上である
B	事業計画に基づく評価表の評価項目がS・Aのいずれか及びBで構成されており、S・Aの割合がBの割合より少ない 事業計画に基づく評価表の評価項目がS・A・Bのいずれか及びCで構成されており、S・A・Bの割合がCの割合以上である
C	事業計画に基づく評価表の評価項目がS・A・Bのいずれか及びCで構成されており、S・A・Bの割合がCの割合より少ない
D	上記に関わらず、事業計画に基づく評価表の評価項目内に一つでもDがある場合

項目別評価状況	
S	事業計画以上の優れた管理運営がなされている
A	概ね事業計画どおりに管理運営がなされている
B	概ね事業計画どおりに管理運営がなされているが、一部軽易な改善事項あり
C	事業計画どおりの管理運営がなされておらず、早急な改善を要する
D	指定の取消しをせざるを得ないような不適切な管理運営がなされている

品質管理把握状況

各種報告書の提出状況の確認	基本協定書に定める期日内にて確認
現地把握調査	時機に応じて実施
意見交換会の実施	毎月第3金曜日に実施
利用者アンケート	通年実施
事業報告書提出日	令和6年5月30日
ヒアリング実施日	毎月第3金曜日に実施

指定管理者による自己評価	記入日	令和6年5月30日
所管課による評価	評価日	令和6年12月27日

<項目別評価表>

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
中項目 1.管理運営の基本方針		
小項目 1.基本方針の理解		
(1)施設の設置目的を十分に理解し、管理運営を行っている。	A	職員は施設の設置目的及び管理運営の基本方針を十分に理解し、管理運営を行っていた。また、管理運営の基本方針を記載した掲示物を環境学習館内に掲示し、利用者に周知を行った。
小項目 2. 都市公園としての機能を良好な状態での維持管理		
(1)誰もが安全に安心して利用できる維持管理が行われている。	A	貴重な三番瀬の保全に努めるとともに、安全・安心・快適に公園を利用していただけようように清掃や施設の法令・自主点検を行っていた。施設の状況を常に把握し、修繕箇所があった場合、早急に修繕し、所管課へ報告していた。また、特定外来生物で神経毒を持つセアカゴケグモについては、月に1度公園内の点検を行い、発見の都度駆除し、所管課に報告すると共に、公園内掲示板やHPにて注意喚起を行った。新型コロナウイルス感染症対策は、5月7日まで環境学習館、展望デッキ棟出入り口をはじめ、受付やレストラン等にも消毒液を設置すると共に、お客様にマスク着用の協力を依頼した。5月8日以降「第5類」に移行したため、新型コロナウイルス感染症対策掲示物を撤去しマスク着用も任意とした。
(2)ふなばし三番瀬海浜公園の特性を踏まえた維持管理が行われている。	A	ふなばし三番瀬海浜公園の施設の特性を踏まえ、利用者が快適に利用できるように日常清掃や除草、樹木管理等を実施した。施設管理については管理計画表を作成し、日常点検や保守点検の実施など、計画的に維持管理を行った。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
小項目 3.本市を代表する施設として、市と連携を図った管理運営		
(1) 本市が主催・支援するイベント等における施設利用時に協力している。	S	西図書館主催のイベントでは講師の派遣や展示物の出展を行い、ふなばし市民祭りでは三番瀬に関連したワークショップを行うなど、アウトリーチとしての施設利用で協力していた。国際交流課主催の国際交流員視察の際や、他自治体からの行政視察の際には受け入れに協力し、施設案内等を行った。「環境フェア」、「三番瀬クリーンアップ」などの開催時には、事前準備に協力し、イベント当日にはイベントと連携したワークショップ、パネル展示、体験会を行うなど市の事業と連携していた。また、ふなばし市民大学校の講座、エコカレッジへの講師派遣等の依頼にも積極的に協力していた。
小項目 4.ふなばし三番瀬環境学習館の設置目的を踏まえた環境学習事業		
(1)三番瀬のみならず地球環境への気づきをはぐむことができる施設としての活用を図っている。	S	干潟に棲む生き物、野鳥、植物、虫それぞれをテーマとした「三番瀬探検隊」シリーズ観察会や、オンラインワークショップの「皆既月食」、定例ワークショップの「星と潮騒の夕べ」など、老若男女問わず、利用者が地球環境について楽しく学べる工夫を凝らしたイベントや展示を開催していた。また、利用者がより詳しく三番瀬や地球環境について学ぶことができるよう独自のスキルや豊富な知識を持つ職員がイベント・展示について説明をしていた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(2)市民やボランティア等と協働で取り組む観察学習、環境学習の施設として活用を図っている。	A	市民協働課「ふなばし夏のボランティア体験」事業に協力し、中学生・高校生のボランティア受け入れをした。またワークショップや展示解説のサポートボランティア受け入れや、三番瀬クリーンアップにおける清掃活動等を行っていた。
(3)家族や身近な人と楽しく学び、コミュニケーションが生まれる施設としての活用を図っている。	S	幅広い年齢層の方が施設全体を楽しむことができ、コミュニケーションが図れるよう環境学習館のイベントや展示に工夫を凝らしていた。また、公園内の運営と併せて一体的な施設運営を行っていた。なお、タッチプールなどの生きものとのふれあい体験を通じ、スタッフや親子間の対話が生まれるきっかけ作りを心がけていた。
(4)成果指標の数値目標を達成している。	S	<p>ふなばし三番瀬環境学習館特記仕様書に示す、成果指標の状況については下記のとおりであり、学習館総利用者数は仕様書の数値目標を達成するなど順調な状況が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習館総利用者数…64,972人 (仕様書数値目標:58,000人(令和8年度)) ②利用者アンケートにおける利用者満足度…90% (仕様書数値目標:80%(令和8年度)) ③市立小学校55校の団体利用の割合…100% (仕様書数値目標:100%(令和8年度))

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
小項目 5.スポーツ振興につながる事業実施		
(1)本市のスポーツ振興や施設を通して、スポーツに親しみを感じられるような事業が行われている。	A	庭球場では「テニススクール」を実施した。野球場では黒土・川砂を敷き均したグラウンド整備を行い、「BSOカウントボード」を導入しお客様が快適に利用できるようにした。その他、少年野球大会への協力、ソフトボール船橋市民大会、学生野球(軟式)リーグ戦への協力を行い、千葉ロッテマリーンズベースボールアカデミーによる野球教室、指導者向け講習会を企画したが、雨天のため中止となった。また、公園内に設置したバスケットコート(3×3用)を誰でも気軽に利用できるようバスケットボールの無料貸し出しを行っていた。
中項目 2.業務計画		
小項目 1.施設及び設備の維持管理		
(1)常に施設を安定して提供できるような体制や人員配置、計画となっている。	S	野球場や庭球場の施設予約が24時間いつでもできるよう生涯学習施設予約管理システムで管理されていた。夕方の公園利用促進や公園周辺の夕景を楽しんでいただくなど、利用者サービス向上を目指して駐車場開場時間を午後7時までとし、開場時間の延長に対応できるよう勤務シフトを多様化(早出・遅出・午前勤・午後勤等)することで安定した運営にあたった。校外学習が多い6月、7月、9月、10月、11月には臨時開館日を増やして数多くの校外学習に対応し、利用者の少ない1月から3月にかけては臨時休館日を増やすなど、時期による利用者の増減に合わせた受入れ体制や人員配置を行っていた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(2)施設の快適性や魅力の向上に寄与する清掃業務を行っている。	S	公園の景観の保持のため、公園内全域の清掃を毎日実施し、環境学習館においては、利用者が快適に利用できるように閉館後清掃を実施した。また、初日の出を見に利用者が多数来園する元日には、職員が臨時出勤し、トイレ清掃を実施した。
(3)エネルギー使用量の削減、廃棄物の発生抑制及び資源化等、環境への配慮がなされている。	S	公園内で使用する電力のデマンド値を下げるため監視装置を設置し、電気使用量の削減に努めていた。冬季期間は噴水設備の稼働を停止し、電気・水道の使用量の削減に努めていた。また、特別展・企画展において使用する臨時照明はすべて LED タイプとし、電気使用量の削減に努めていた。また、使用する資材、機材等は極力再使用を念頭に調達し、会期終了後の什器、廃材などのリユースに努めていた。
小項目 2.利用者の平等な利用確保及びサービスの向上		
(1)利用者の平等な利用が確保されている。	A	特定の利用者や団体に対して優遇すること無く、すべての利用者が平等に利用できるよう公平・公正な運営を行っていた。
(2)利用しやすく、また、再び利用したくなる施設運営を考えている。	S	利用者が安全・安心・快適に利用できるように施設の適切な維持・管理を行い、一部の施設ではクレジットカード・QR決済対応を導入していた。入会していただく何度でも常設展・特別展を利用でき、限定ワークショップへの参加が可能となる会員制(友の会)を導入し、また、一年を通してテニススクールを開催するなど再び利用したくなるような仕組みを取り入れていた。また、夕方の公園利用促進や公園周辺の夕景を楽しんでいただくなど、利用者サービス向上を目的とし、駐車場開場時間を通年で午前9時から午後7時までとした。イベント等開催日は、開場時間を繰り上げるとともに、警備員等を配置し周辺道路の渋滞の緩和及び入庫待機時間の減少を図るなどお客様へのサービス向上に努めた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(3)利用者からの要望・苦情等に対処する体制がとられており、迅速・丁寧・誠意のある行動で対応している。	A	環境学習館内に設置している「お客様の声」やホームページの「お問い合わせ・ご意見フォーム」、また、直接のご意見・苦情等について利用者からいただいた要望等に迅速・丁寧・誠実に対応するとともに、月一回の定例会で逐一各種情報を市に報告していた。
(4)本市要領や関係法令等に基づき、障害者差別の解消に係る適切な対応がなされている。	A	各種障害者利用料の免除規定をパンフレットに掲載していた。また、「障害を理由とする差別の解消の促進に関するFSPグループ職員対応要領」を作成して障害を持つお客様の心身や特性について学べる職員研修を実施し、障害を持つ利用者を含むすべての利用者が快適に利用できるよう合理的な配慮を提供するなど、接遇向上に努めていた。
小項目 3.利用者等の安全確保		
(1)事故防止対策など安全対策が考慮されている。	S	職員等による公園内及び環境学習館内の巡回のほか、保安カメラによる監視を実施していた。また、関係法令に基づく建物・機械等の点検や食中毒防止対策を講じていた。さらに、人工海浜に面していることから、船橋市関係部署や市川市、船橋市消防局等との連携を図るとともに、船橋市消防局の訓練等に参加し、救助器具の使用方法や器具の種類、水難事故に対する対応についてアドバイスを受けた結果、職員のスキルアップにつながり、利用者が、安全・安心・快適に利用できるよう努めた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(2)事故発生時の対応が考慮されている。	A	津波避難訓練や防災訓練等を実施し、職員が迅速に対応できる体制を整えていた。また、事故発生時には、緊急連絡体制に沿って、関係部署との連絡を迅速に行っていた。
(3)災害、事故、犯罪、感染症等の非常事態に対応するマニュアルを作成し、職員で共有が図られている。	A	ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館の立地条件も考慮した災害、事故、犯罪、感染症等の非常事態に対応するマニュアルを共有し、共有データとして職員が常時閲覧できるような体制を整えていた。
(4)災害が起きたことを想定し、訓練を行っている。	S	消火訓練や津波避難訓練、救命及び水上安全法講習を実施し、船橋市消防局の水難救助訓練にも参加して緊急時に適切に対応できるよう職員のスキルアップを図った。
小項目 4.利用促進の方策		
(1)利用者拡大、サービスの向上に独自の創意工夫が見られる。	A	SNSを活用した情報発信だけでなく、ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館をより多くの人に認知していただくために市内公共施設の指定管理者同志で協力したイベントを積極的に開催し、他施設で三番瀬のPRを行うことで、今までリーチできていなかったお客様に三番瀬を知ってもらう機会をつくり、海浜公園及び環境学習館の魅力を発信した。イベント開催後は参加人数や売上等の結果を評価し、継続しての開催をすべきか、別のイベントを企画すべきか等を考案して利用者数拡大を図った。また、独自の広報誌「さばかん通信」を毎月分作成し、市内公共施設や市内全小学校に配布した。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(2)積極的な利用者への聞き取り等、様々な方法を用いた利用者アンケートにより、ニーズを把握する方策がとられている。	A	環境学習館内に設置されている「お客様の声」や、ホームページにある「お問い合わせ・ご意見フォーム」で、来館時でも来館時以外でも常に利用者が意見・要望・苦情等を記入できるようになっていた。また、校外学習で来館された学校団体や潮干狩り利用者、ワークショップの参加者へのアンケートを実施し、アンケート結果を市に報告していた。好評の企画等を分析・考察することで利用者のニーズに沿う運営となるよう努めていた。集まったご意見やご要望に対し、即応できるものについては迅速に対応し、それ以外については所管課に報告するとともに、今後の対応について協議した。
(3)施設や事業に関心を持ってもらうため、積極的かつ効果的な広報活動を行っている。	S	ホームページや、X(旧 Twitter)、Instagram、広報ふなばし等での情報発信に加え、外部イベントに積極的に参加し、ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館の魅力を伝えていた。また、千葉県のイベント情報を集めている部署や、観光系の雑誌・テレビ番組の取材などへの対応を積極的に行った。なお、小学校で使用される三社(東京書籍、大日本図書、啓林館)の教科書に引き続き掲載されることとなった。さらに、千葉県内の小学校、保育所、幼稚園等約3,800カ所に団体誘致の案内をダイレクトメッセージで送付するなど、様々な形で広報活動を行った。
小項目 5.ふなばし三番瀬海浜公園ならではの自主事業の実施		
(1)施設の設置目的を十分に理解した内容である。	A	施設の設置目的を十分に理解し、隣接する三番瀬の環境を活かした自主事業やスポーツ振興につながるような自主事業を実施していた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(2)魅力ある自主事業となっている。また、参加しやすいような創意工夫がとられている。	A	船橋市内の出店者による三番瀬マルシェ、ふなばし三番瀬海浜公園の魅力を感じていただくためのふなばし三番瀬海浜公園フォトコンテストなどの地球環境や生物多様性について学びながら楽しめるイベントを開催していた。また、市内指定管理施設の他指定管理者と共催イベントを実施し、ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館の魅力発信に努めた。さらに、市内だけでなく市外からの利用者拡大を狙い、他団体や一般企業とも共催イベントを実施した。
(3)利用者への平等性について考慮された実施内容となっている。	A	様々な年齢層を対象とした事業を実施していた。イベント参加の申し込みなど定員を設定する場合には、受付日時や方法などの情報の事前公表を行っており、先着順で申し込みを受ける場合には、公表した受付開始時期や方法を厳守し、抽選を行う場合は、応募者から無作為に抽出する方法に徹底することにより当選者を決定するなど、利用者への平等性を考慮した自主事業を行っていた。
小項目 6.ふなばし三番瀬環境学習館ならではの事業の実施		

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(1)常設展示の取り扱いだけでなく、年間を通して多彩で年齢層に応じたワークショップ・プログラムを定期的開催している。	S	全く異なる体験ができる「ちびっこ集まれ！」シリーズ、季節ごとに変わる旬の食材を利用したキッチンスタジオでの料理系ワークショップ、波の音を聴きながら望遠鏡を使って夕暮れの星々を観察する「星と潮騒の夕べ」、年に2回ある「ダイヤモンド富士観望」など、子供から大人まで幅広い年齢層に応じたプログラムを開催していた。
(2)地産地消を念頭に置き、市内関係団体と協力した「食の学習プログラム」を構築している。	A	「ふなばしを食べつくそう」シリーズや「海の恵みを味わおう」シリーズでは、季節ごとに変わる市内で採れた旬の食材を使い、様々な料理やお菓子、デザート作りを行っており、参加者に船橋市ではどのようなものが採れるのかを知っていただくことができるプログラムとなっていた。
(3) SDGs や生物多様性を意識した学習プログラムを構築している。	A	毎月発行している広報誌「さばかん通信」には、各イベント・ワークショップに17ある SDGsの目標のいずれかのアイコンが記され、一目でわかるようになっていた。また、専門的な知識を持つ環境学習館スタッフが解説することにより、生物多様性を中心に学びを深める工夫がなされていた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
(4)前面に広がる三番瀬の特性を生かした環境学習を推進している。	S	「三番瀬探検隊」シリーズでは人工海浜に棲む珍しい動物や植物、虫、野鳥をそれぞれテーマに東京湾の多種多様な生物を観察することができるプログラムを開催していた。また、環境学習館内に設置されている「触れる地球」では渡り鳥がどのようなルートで海を渡り、三番瀬海浜公園の人工海浜にやってくるのか、天気はどのようにして変わるのかなどを地球儀に触れながら地球の環境について学ぶことができる企画となっていた。その他、三番瀬の生き物についてより深く学び・研究するための「三番瀬ラボメンバーズ」を開講し、小学1年生から5年生までの計19名の申込があった。9月、12月、3月にはラボメンバーズ限定のフィールド調査の講座を開催した。
中項目 3.事務管理計画		
小項目 1.従事者の配置計画		
(1) 専門性を理解した組織、人員配置を行っており、また、閑散期・繁忙期等に合わせた柔軟な人員配置を行うことで、利用者サービスの確保を図るとともに、人件費が過大とならないよう努めている。	S	公園管理運営士や衛生管理者など施設の管理運営に必要な資格を持つ職員を配置し、管理運営を行っていた。従事者の配置を計画的に行い、繁忙期の臨時職員などの雇用により効果的な運営を図っていた。また、校外学習や特別展開催により団体利用者が多い繁忙期には臨時で環境学習館の開館日を設けた。併せて、繁忙期には安全確保のためアルバイトスタッフを雇用し、利用者の安全、利便を第一としながらも、時差出勤(早出、遅出、午前勤、午後勤等)を取り入れ、可変的な人件費の管理、抑制を行った。以上のような工夫をしつつ労働関係法令に違反しないように、時差出勤(早出、遅出、午前勤、午後勤等)を取り入れながら適切な人員配置を実施しお客様へのサービス向上に努め、定期的実施している「お客様アンケート」でもお客様満足度を高い水準で維持し、利用者増加に繋がった。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
小項目 2.従事者の教育と研修計画		
(1)利用者等への接遇向上、管理運営に必要な資格の取得等に必要な従事者教育や研修が行われている。	S	接遇、人情報取り扱い、自動車安全運転、水上安全法短期講習などの研修を実施し、従事者教育に努めた。また、学芸員、公園管理運営士、ビオトープ施工管理士、ガス溶接の資格獲得を支援していた。結果としてビオトープ施工管理士が2名、ガス溶接資格取得者は1名新たに資格を取得し、ワークショップや自然観察会の講師として、また、ミニカーコースの補助器具作成など修繕業務にあたるなど、従業員が行える業務の幅を広げた。法人独自で樹上講習会や新規採用職員に対する安全管理研修を実施した。
(2)サービス基準の確保のため、接遇対応マニュアル等が作成され、活用されている。	A	接遇対応マニュアルは必要の都度改定し、職員間で共有されていた。また、利用者の意見に基づき、適宜改善を図っていた。
小項目 3.従事者に対する労働条件等の対応		
(1) 従事者に対する労働条件が適正であり、雇用に関しての基準や体制、福利厚生が確立されている。	S	従事者の労働条件は法に準じ、適切に整備されていた。応募時の事業計画書に記載されている「適正な労働条件の確保に関する取り組み」を実施していた。また、産業医による健康セミナーを学習館の多目的ホールで実施し、複数の職員が参加し、個別でも健康相談ができるよう環境を整えた。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
小項目 4.連絡体制		
(1)管理運営に際し、責任者や各職員の業務分担が明確になっており、指揮命令系統が確立されている。	A	管理運営業務の指揮命令係等のわかる担当課が明確になっており、業務の指示・伝達及び報告が朝礼・終礼等で行われていた。
小項目 5.個人情報の取扱い		
(1) 関係法令に基づき、個人情報の適切な管理のために必要な措置、研修等を講じている。	S	「公益財団法人船橋市公園協会の保有する個人情報の保護に関する規定」を定めており、個人情報保護体制及び基本方針に基づき適切に管理され、取り扱われていた。また、社会保険労務士による個人情報取り扱いに関する研修を実施し個人情報保護の重要性について職員に周知・徹底した。
中項目 4.収支に関すること		
小項目 1.収入見込		
(1)利用料金等の収入見込が適切である。	A	令和5年当初の収入見込み(当初予算)に対して約2%減収となった。

評価項目	所管課による評価	所管課による評価の理由
小項目 2.支出見込		
(1)事業費の支出見込が適切である。	A	人件費の上昇(千葉県単価上昇に伴う第三者委託費の上昇含む)があったが、公園内で使用する電力のデマンド値を下げるため監視装置を設置するなど、様々なコスト削減に努め、支出見込みから約6.8%減とした。
小項目 3.事業費の削減に関する創意工夫		
(1)創意工夫により経費の削減に努めている。	S	契約電力を低く抑えるため「デマンド値監視装置」を設置したほか、屋外水道施設の蛇口を節水蛇口に変え、噴水設備を冬季期間の稼働停止し、水道・電気使用量の削減を図っていた。また、知識と技術のある職員が展示等で使用する物品を独自で制作することで外注を抑え、さらなるコスト削減を図っていた。